

要素技術プログラム(先端計測分析技術・手法開発事業)

計測分析機器の性能を飛躍的に向上させることが期待される新規性のある独創的な要素技術の開発

機器開発プログラム(先端計測分析機器開発事業)

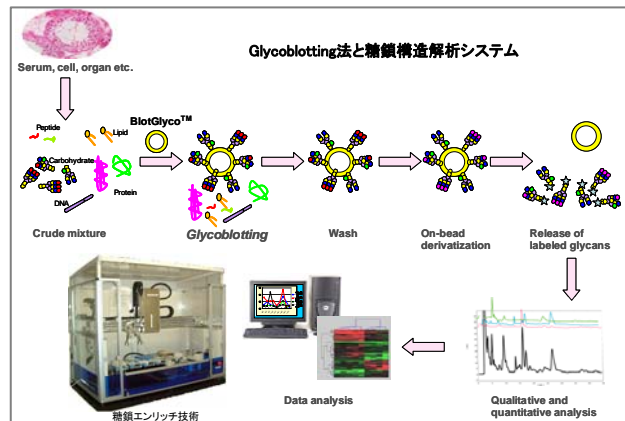
産学官連携による開発チームを編成し、独創的な研究開発活動を支える最先端の計測分析機器のプロトタイプ機を開発

プロトタイプ実証・実用化プログラム(先端計測分析機器実証・実用化事業)

世界トップレベルのユーザー等を含めた産学官連携による開発チームを編成し、プロトタイプ機の性能実証、応用開発を実施

【医療利用指向の例】

「疾患早期診断のための糖鎖自動分析装置開発」
北海道大学(理)、日立ハイテクノロジーズ 他
総額予算(H16~20):611百万円

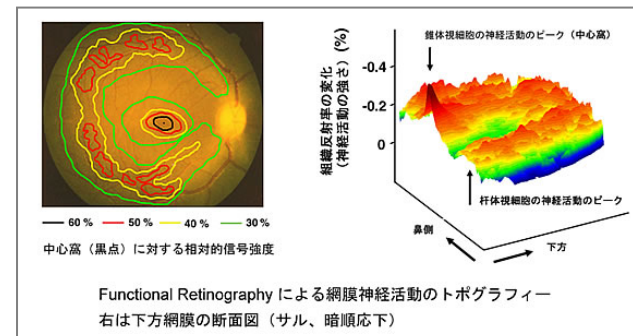


第6回JST-SENTSN
シンポジウム講演要
旨集より

微量の生体試料(血清0.2ml)を用いた予防診断や糖鎖機能解明による疾患の原因解明研究に貢献

(領域名)「人体内の臓器、病態、脳の高次機能などの無・低侵襲リアルタイム高解像度3次元観察、及び人体中の物質の無・低侵襲定量分析」

「機能OCT網膜内因性信号計測システム開発」
(株)ニデック、東京医療センター 他
総額予算(H19~22):145百万円



Functional Retinography による網膜神経活動のトポグラフィ
右は下方網膜の断面図(サル、暗順応下)

東京医療センター
視覚生理学研究室HPより

機能的干渉断層計(OCT)イメージングを活用することにより非侵襲・他覚的に高精細網膜内因性信号計測が行えるシステムを開発し、視神経機能実質における極早期診断を可能にして医療分野の発展に貢献

大学における教育・研究の充実と活性化

平成20年度予算額 20.7億円（平成19年度予算額 6.1億円）

臨床研究・研究支援人材の養成 —社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム—

平成20年度予算額 1.6億円（平成19年度予算額 1.6億円）

創薬・新規医療技術の開発等に資する臨床研究を推進するため、医学部の学生や病院に勤務する医師・看護師等を対象に附属病院の臨床教育機能を活用した教育を行うなど、質の高い臨床研究者や研究支援人材を育成する優れた取組を支援。

大学病院連携型高度医療人養成推進事業

平成20年度予算額 15億円（新規）

複数の大学病院が連携協力し、各大学病院が得意とする分野の相互補完を図り、若手医師にとって魅力あるキャリア形成システム構築することにより、高度な専門医及び臨床研究者を養成する取組を支援。

国立大学の取組に対する支援（国立大学法人運営費交付金・特別教育研究経費）

平成20年度予算額 4.1億円（平成19年度予算額 4.5億円）

- 「つくば次世代医療研究開発・教育統合センター」としての臨床試験支援体制の構築〔筑波大学〕
- 先進医療開発システム〔福井大学〕
- トランスレーショナルリサーチとしての先端医療用マテリアル開発・供給システム構築のための戦略的推進研究〔名古屋大学〕
- 次世代医療技術・創薬・臨床開発プロジェクト〔京都大学〕
- 大学病院における治験推進モデル組織の構築〔大分大学〕